

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0174700989), 法人名 (社会福祉法人 池田光寿会), 事業所名 (グループホームきよみ), 所在地 (中川郡池田町字西2条10丁目2番地20), 自己評価作成日 (平成26年11月19日), 評価結果市町村受理日 (平成26年12月22日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 静かな環境 緑豊かな自然な場所
2. 保育所の子供達との交流で癒され、姿を見ながらのんびり散歩ができる、のどかな場所。デイサービスで大きなお風呂に入り温泉気分、デイへ遊びに行きおしゃべりに花が咲きます。このように法人間の連携がとりやすく、医療・栄養にも心配りをし安心して暮らせる場所です。今年度の取り組みとして口腔ケアに力を入れています。最期まで元気で食べて頂くことを目指し食事前の口の体操、食後の口腔ケアに力を入れています。一人一人の生活を大切に最期までこの場所で生き生きとした生活をしてもらえるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr ue&JigvosvoCd=0174700989-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成26年12月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

池田町の高齢者介護・児童福祉の中心的な役割を担う社会福祉法人池田光寿会により、平成17年に開設されたグループホームきよみは、自分らしい、自立した生活が送れるように支援するとの3項目の理念のもと、更に、管理者、職員が自分たちの目標として、3項目のあるべき施設像と、ケアの目標「優しさ、親しみ、専門性、を感じられる」を定め、会議で唱和して常に意識のもとに置き、支援に努めている。職員は改善点、アイデアを積極的に提案し、利用者家族の来訪機会が増えるよう行事のお知らせ時期の工夫や、運営推進会議委員、地域住民との親交に取り組み、収穫祭で昼食会を催したり、ふれあい祭りをを行い、多くの交流に取り組み、成果を上げている。また、利用者のむせ込みが多くなった事を通し、今年度、口腔ケアに力を入れ、外部研修の受講、歯科医によるブラッシング指導を受け、楽しい食事が出来るよう支援し、利用者の会話やアセスメントから望んでいる暮らし方を把握し、外出やドライブに出かけ気分転換を行うと共に、穏やかな生活ができるよう配慮している。

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain detailed evaluation data for various aspects like staff care, communication, and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念に向けて達成できるように介護サービス3箇条を毎朝復唱し、スタッフ間で事故のないよう確認している。	グループホームきよみの理念と職員で決めた私たちの目標を掲示し、毎朝ミーティングで私たちが目標とするケアを唱和し共有して実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の多種のボランティアの方々に来ていただき交流できている。 (読み聞かせ・美容室)	町内会には加入していないが、保育所、町内会、法人合同の地域のふれあい祭りがあり500人からの参加で大きな祭りとなり、交流が行われている。また地域の多彩なボランティアの慰問があり日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の図書館で本の貸し出し利用(毎月)ふれあい広場等の地域の行事に参加させていただいて利用者様は喜ばれている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議が開かれ、その一部として避難訓練や、ホームで作った野菜の収穫祭などを開き、生活を見ていただいている。	2ヶ月に一度併設の地域密着型特別養護老人ホームと共催で、利用者家族、消防団役員、町内会役員、町介護保険課職員の出席を得て利用状況、活動報告を行い質疑や意見を運営に活かしている。出席していない家族にはお便りで報告をし、事業所で閲覧も可能となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会を設立しホームの活動を報告したり、実際に見ていただいたり、SOSネットワークにも参加して協力している。	2ヶ月に一度町主催の在宅支援会議に出席したり、報告書提出で訪問して、その中で指導や助言を得たり情報交換をし協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関は施錠していませんので帰宅願望の方とは一緒に外へ出たり気分転換していただいている。 身体拘束の学習会や研修も参加し勉強させていただいている。	管理者、職員は年2回社内研修で身体拘束について弊害や禁止行為を正しく学んでいる。また、外部研修も受けており、その後職員会議で伝達研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などでも勉強会を開き、外部の研修にも交代で参加し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や制度については理解はできている。必要があればキーパーソンに連絡し、相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は管理者が行い、改定などの説明も理解を得ており、充分説明できている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様においては直接、又は意見箱の設置にて受けておりますが、投函はなく通院の付き添いも家族様が同伴との契約で理解していただいている。(往診以外)	年々利用者家族の来訪が限られてきたため、年に2回家族会を開催したり、行事は早めに連絡したり、お便りを発行して様子を知らせる等、様々な努力をし、信頼関係を構築している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議や2ヶ月に1回の職員会議での意見・取りまとめ・対策で反映させている。	毎月の会議で職員から提案のあった事を取り組んだり、運営に活かしている。職員から、運営推進会議や委員の役割、内容が知りたいとの提案があり、収穫祭での昼食会を開催し交流を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間での声かけで働きやすい環境を整えて各係を割り振りして、スムーズに仕事ができている。 各担当を決めて「きよみだより」の文章作りをしてもらい、その利用者様を観察している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は進んで参加しているので、各自スキルアップにつながっている。 朝のミーティングで統一を図るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し相互研修や各研修会に参加し、勉強会にも参加する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	耳を傾けることはできている。 ご本人・家族様の希望に沿って不安がないように職員間で情報を共有できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られたら必ず声かけと現在の生活状況を伝え、家族様と電話も使いながら説明を行うなどして関係作りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様には面談で説明できていて、できる限り要望に沿った対応ができている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様だけにせず、必ず近くに職員が見守りし、その都度早めにケアをできるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員各自担当を決めていて、その方の1ヶ月の様子・お知らせを「きよみだより」として毎月家族へ送り関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	汽車に乗っての汽車の旅、家族様にも声かけをして参加していただいたり、ドライブ外食・地域・地元での買い物等での関係が途切れないように努めている。	利用者のこれまでの馴染みの関係や習慣が途切れないように家族の協力を得ながら支援している。嘗ての仕事関係から汽車乗車を定期的に行ったり、馴染みの美容院へ出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自己決定ができる方には尊重し、趣味を続けていただくが、そうでない方には一人にならぬ様、又、他者とのトラブルにならぬように間に入る等して関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談、支援、助言している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や態度、会話、コミュニケーションを通して、ご本人の希望に沿ったケアを行えるよう努力している。	利用者の思いや暮らし方の意向は、日々の会話や午後のレクリエーションと一緒に造り物を通して把握し、意向に沿った暮らしが出来るよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や情報・会話を通して必要に応じてできていると思う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調を見ながら一日の生活、昼夜逆転等、個々の情報を職員間でミーティング等にて共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でケア会議等をしてモニタリングし行っている。	概ね6ヶ月毎の見直しをしており、毎月のモニタリングを行い、サービス担当者会議、利用者家族の意向を把握し、現状に即した介護計画を作成している。介護記録は生活と健康面で記載されており、また、ケアプランチェック表を用い適切なサービス提供がなされるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「毎日の様子」「ケース記録」に記録して情報交換し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車イスや栄養のバランス、大型車など人間でその都度助言をしていただき活用もする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のゴミステーションに資源ごみを出しに行く。読み聞かせやミュージックケアなどを通して参加し楽しんでいただけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけの病院へ一緒にお手紙を通して報告をし、必要などときには往診もある。	受診は家族の対応で行っており、その後お話を伺い情報共有している。協力歯科医師によりボランティアで毎月往診があり、適切な口腔の健康維持に努めている。また、緊急を要する時には法人の看護師に依頼する等、適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの病院への相談ができ、往診時にも相談している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中・退院時には病院との情報交換ができており、今後も関係作りをしていきたい。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度家族様にお知らせし、又、スタッフ間でも情報交換ができ統一したケアを行えている。	医療面での連携や家族の対応の条件が整えば、終末期における看取り支援も可能との事を、利用契約時に口頭で話をして理解を得ている。職員が外部での研修を受け、適切な取り組みが出来るよう取り組んでいる。		取り組みの方針や指針等、又、延命処置の希望を含めた同意書等、文章化した物による説明等の体制整備構築の工夫を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員研修救命救急は専門の方より指導を受けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練の他に行事等での移動も本番をイメージして常に素早く練習している。	火災時の避難訓練は、消防の指導のもと地域住民の協力を得て、二つのユニットそれぞれで年2回、合計4回行っている。地域住民には外部での誘導をお願いすると共に、最終的な避難場所は敷地内のデイサービスと決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に向き合い、丁寧な言葉遣いを心掛けて接している。	コンプライアンスルールを掲示し職員が守るべきルールを徹底している。職員は丁寧な言葉遣いに注意を払い、入浴時のカーテン等、羞恥心に配慮した取り組みに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本意にならないよう入浴後の服選びを一緒にしていただいたり、自己決定を尊重している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人の時間を大切にしペースを大事にしその人らしく生活できるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容などのサービスや起床時の洗面、整容、男性はひげそりを行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好調査をし、嚥下状態を見極めて提供している。準備を一緒にできる方は少なく、片付け、食器拭きをお願いしている。	法人の献立を参考に、職員が利用者の好みを取り入れた献立を作成し、年に一度は法人栄養士にバランスの確認をお願いしている。食材は配達となっているが、調味料等の持って軽い物は利用者と同じ物に出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量は毎日「毎日の様子」に記入し、献立係は栄養のバランスを考えながら作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行って残菌のある方には、磨ける方には自分で、支援したり義歯は週に2回ポリドントにつけ清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンをよく調べパットの大きさにも工夫している。	利用者一人ひとりの排泄記録を取り、パターンを把握して、自立に向けた支援を行っている。毎朝起きがけに冷たい牛乳を飲んだり、ヤーコン茶を飲んでスムーズな排泄になるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活スタイルやパターンを把握して起床時に牛乳を飲んでいただき、そのほか水分、ゼリー等を利用して予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴をしていただいている。便失禁等あった場合はシャワー浴をし清潔を保っている。	週2回以上、利用者の状態に合わせた入浴支援を行っている。お風呂の大好きな利用者には、敷地内のデイサービスセンターにある大浴場を利用させてもらい、楽しい入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じての生活習慣を情報交換し、その人に応じて入床の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の説明書を読み、薬の副作用が現れたら家族様やかかりつけの病院へ相談。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出やその方の趣味を生かして一人一人に合わせたケアをして、気分転換をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生会、女子会、男子会とそれぞれ計画を立てて、なるべくご本人の希望に沿って、家族様にも協力をお願いして実行している。	それぞれのユニットで、男女別にそれぞれ計画を立て定期的な外出を行っている。男子会はばんえい見物や回転ずし、女子会は甘味を食べに、それぞれの好みに応じたドライブ等を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理できる方が少なく、所持している方は一緒に買い物に外出してのど飴等、自分のために使っていたけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々家族様へ電話を掛けているときもあり、手紙の返事を出されている方もいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明をLEDに替えている。 危険や事故が無いように、イスやテーブルの配置に気をつけ刺激が少ないように、家庭的な雰囲気を作るように工夫している。	各ユニット同じ間取りの別棟となっている。事業所内は十分なスペースが取られ、リビングには、畳敷きの小上がりが設えてあり、家庭的な雰囲気となっている。天窓からの採光や、温度・湿度に注意を払い、居心地良く過ごせるように配慮している。非常口はスロープとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通スペースではゆったりと座って休んでいただけている。		
54	20	あれ 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の私物を居室に飾ったり写真を貼って喜んでいただけている。	居室のドアには、災害避難時に使用する個別カードが用意されている。家族の協力を得て、各居室に加湿器が置かれている。クローゼットが設置された居室には、テレビや馴染みの家具、好みの物や写真を飾り、その人らしい部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全に過ごしていく環境を整えることにより、残存機能を活用できるように支援している。		